第34回びわこ学園実践研究会報告

【平成26年12月13日㈯　立命館大学びわこ・くさつキャンパス（滋賀県草津市）】

法人企画研究部長　石井　裕紀子

12 月 13 日、立命館大学びわこ・くさつキャンパスにて第 34 回びわこ学園実践研究発表会を開催しました。今年度は創立 51 年目を踏み出すということで、初代施設長のことば、「本人さんはどう思ってはるんやろ」という原点に立ち戻り実践を検討するという企画を立てました。午前中の講演会と午後からの 3 つの分科会という構成で、全体で 250 名を超える多数の方々にご参加いただきました。

午前の部　「 全体講演 」

参加者が演じたロールプレイで会場に笑いが起きるほど、和やかな雰囲気でご講演いただきました。

首都大学東京の西村ユミ先生に「ケアの本質を考える」というテーマでご講演をいただきました。遷延性意識障害のある患者と看護師との交流、職場のケアを作っていく協働実践を現象学という視点で深めることで、「意識がない」と言われている患者に対して、意識する手前の「身体」固有の次元でケアが始まっているということ、その営みがケアの現場の協働を支えているということをお話しいただきました。現象学という難しい視点ではありましたが、事例紹介や参加者のロールプレイを通して、わかりやすくお話しいただき、日々の支援の実践と重ねて理解できることがたくさんありました。自己表出が非常に困難な利用者の支援にあたっては、その「手ごたえ」を「思い込み」に留まらせないために、利用者の姿を支援者との関係性の文脈の中でとらえ直すこと、またそのことをことば化して支援者間で語り合うことで共有し、かつ関係性のあり方を自分自身に問い返すことが大切であることなど、支援実践の上で貴重なご示唆をいただきました。

午後の部　「 各分科会 」

第一分科会は「利用者のエンドオブライフにおける支援」というテーマで、①センター草津から「重症心身障害児者施設でのエンドオブライフケアについて　～デスカンファレンスから見えたこと」、②センター野洲から「びわこ学園医療福祉センター野洲のターミナルケアの特徴」、③訪問看護ステーションちょこれーと。から「ターミナル期にある小児がん患児の訪問看護を通して見えてきたこと」を報告しました。3 つ目の報告については、3 歳のお子様を看取られたご両親にもお話いただきました。どの発表にも共通したキーワードは、びわこ学園の理念でもある「その人らしさ」「ふつうの生活」、そして「本人さんはどう思ってはるんやろ」でした。残された家族やスタッフが最期に「これでよかった」と思えるためには、そのことについてどれだけ関係者間で話し合いができ、実践できるかが大きな焦点だということです。特に、「カッコ良い姿で看送ることができた」というご両親のおことばと当時のお写真は参加者の心をゆさぶり、胸に残りました。

各分科会の様子（左から第一分科会、第二分科会）

第二分科会は「医療重度利用者の暮らしの支援」というテーマで、①センター草津から「脳炎後遺症による重い障害を持ち表情のとらえにくい利用者の表現力を考える」、②センター野洲から「超重症児・者に対する感触遊び活動の実施について」、③知的障害児者地域生活支援センターから「在宅医療を必要とする超重症心身障害児者と家族を地域で支える暮らしの支援」の３つを報告しました。いずれの報告も「医療重度利用者の支援は、医療のみならず、生活を送る為の様々な支援の中でその方のＱＯＬの向上を図るものである」という思いを込めたものでありました。①②の報告の視点は、午前中の講演の内容と重なるものでもありました。③の報告は、利用者への支援の広がりと深まりが、ご本人のみならずご家族も含めて生活のあり様をより良いものにすることにつながったという報告でした。

いずれも私たちの取り組みが、「本人さんはどう思ってはるんやろ」の原点を外れることなく実践されているという確認作業ともなりました。

第三分科会は、「利用者の多様なニーズにこたえる支援」というテーマで、びわこ学園障害者支援センターから①「平成 25 年度重症心身障害児者の地域生活モデル事業報告」と②「計画相談支援の概要といくつかの課題」の報告、③知的障害児者地域生活支援センターから「施設入所者における相談支援事業の役割」の３つを報告しました。討議の中で、相談員の役割は、「価値ある人生の設計をする」こと、入所や通所の支援者、心理や医療などの専門家をあつめたサービス調整会議で「利用者の思いを言語化する」ことを確認しました。そして、計画を実施するためにはサービスとそれを担う人材、専門的なコーディネーターの配置や、自立支援協議会などのしくみがあることが必要で、それらが機能することで専門性が発揮できることも確認しました。

今回の分科会は、上記のように入所支援と地域支援の実践を同じテーマで報告し検討するという構成にしました。

「重い障害を持っておられる方々が入所であっても在宅や地域生活においても、それぞれの暮らしの場で求められている支援が提供できるようにしていく」というびわこ学園の今後の支援展開の目標に向け、今回確認した課題を次の取り組みにつなげていきたいと思います。

事務局より

10 月より本格的に参加者の募集を始め、当日には会場がいっぱいになるくらい多くの方にお集まりいただきました。今後もこのような機会で皆様からご意見をいただきながら、より良い日々の支援へ繋がるよう取り組んでいきたいと思います。県外・県内よりご参加いただいた皆様、ありがとうございました。